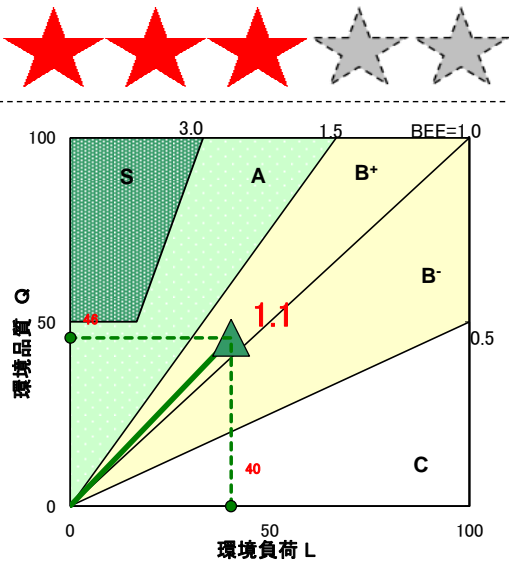


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	熊本シール工業(株)工場新築工事	階数	地上2F		
建設地	阿蘇市一の宮町中通字馬ノ跡609-1	構造	S造		
用途地域	都市計画区域外、防火地域指定なし	平均居住人員	100人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	6,000時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年9月21日		
敷地面積	17,771 m ²	作成者			
建築面積	5,283 m ²	確認日	2012年9月27日		
延床面積	5,647 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.1

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

86%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

79

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

評価点

90.0

66.2

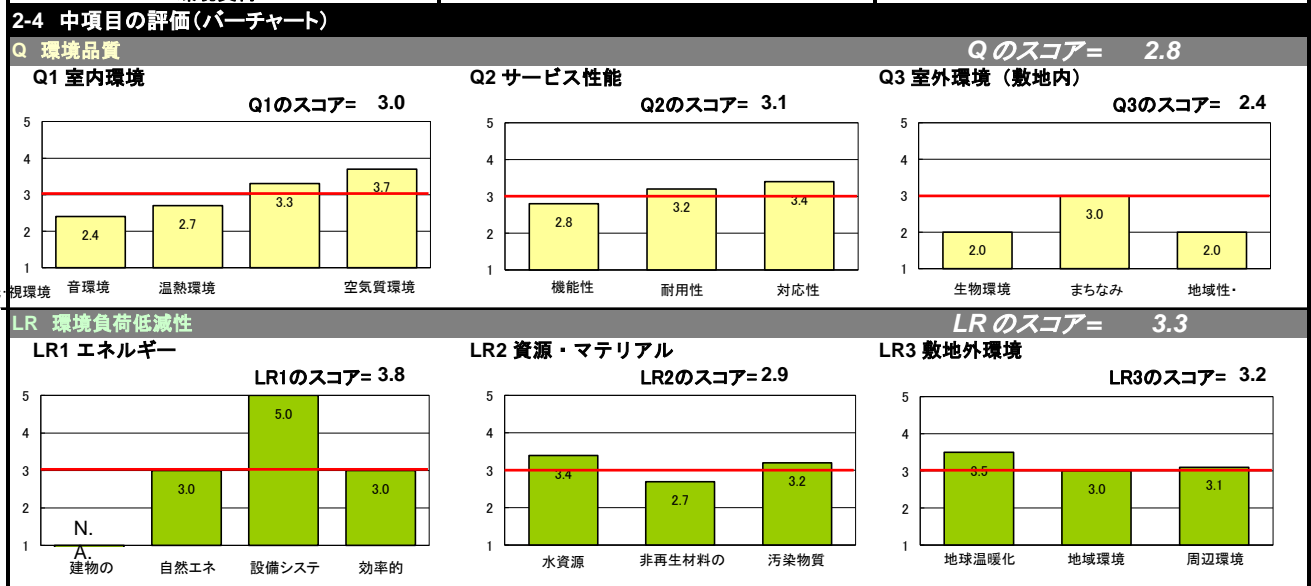
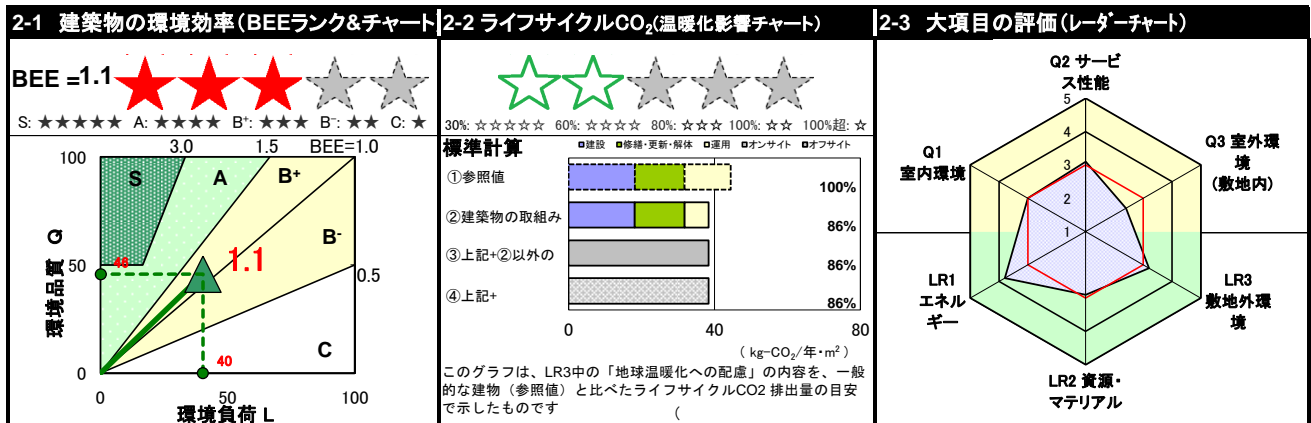
75.0

74.2

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本シール工業(株)工場新築工事	階数	地上2F
建設地	阿蘇市一の宮町中通字馬ノ跡609-	構造	S造
用途地域	都市計画区域外、防火地域指定なし	平均居住人員	100人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	6,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年9月21日
敷地面積	17,771 m ²	作成者	
建築面積	5,283 m ²	確認日	2012年9月27日
延床面積	5,647 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
熊本シール工業㈱工場新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境			0.30					3.0
1 音環境		2.4	0.15	-	-	-	-	2.4
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音	天井:化粧吸音板、床:タイルカーペット	4.0	0.20	-	-	-	-	
2 温熱環境		2.7	0.35	-	-	-	-	2.7
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能	窓SC:0.58、U:4.5、外壁U:0.296	4.0	0.25	-	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	-	-	
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-	-	-	3.3
3.1 屋光利用		4.2	0.30	-	-	-	-	
1 屋光率	事務室:2.8%	5.0	0.60	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 屋光制御		3.0	1.00	-	-	-	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	-	-	
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆採用	4.0	1.00	-	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レンオホラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	-	-	
2 自然換気性能	事務室:0.15(1/10以上)	5.0	0.33	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室設置(2階)	5.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	3.1
1 機能性		2.8	0.40	-	-	-	-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観	事務室:天井高3.0m	5.0	0.33	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	-	-	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用(給水・給湯)	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	屋外キュービクル(20年)	4.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.4	0.19		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用	4.0	0.20		
3	電気設備		3.0	0.20		
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		
5	通信・情報設備	ネット回線(光)	4.0	0.20		
3 対応性・更新性			3.4	0.29		3.4
3.1 空間のゆとり			4.4	0.31		
1	階高のゆとり	階高(軒高):3.8m	4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	比率:0.06	5.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		
3.3 設備の更新性			3.0	0.38		
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)				0.40		2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性						3.3
LR1 エネルギー				0.40		3.8
1 建物の熱負荷抑制						
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29		3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率機器の採用	5.0	0.43		5.0
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	5.0			
		集合住宅の評価	3.0			
4 効率的運用			3.0	0.29		3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル				0.30		2.9
1 水資源保護			3.4	0.15		3.4
1.1	節水	自動水栓、節水型機器	4.0	0.40		
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63		2.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能(軽天・軽鉄下地)	4.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22		3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68		
1	消火剤	消火剤の設置	4.0	0.33		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33		
3	冷媒		3.0	0.33		
LR3 敷地外環境				0.30		3.2
1 地球温暖化への配慮		高効率機器の採用	3.5	0.33		3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33		3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		
1	騒音		3.0	0.33		
2	振動		3.0	0.33		
3	悪臭		3.0	0.33		
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40		
1	風害の抑制		3.0	0.70		
2	砂塵の抑制		1.0	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの一部を満足、広告物照明の取扱いなし	4.0	0.70		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

工場として、各フロアーでは段差をなくし廊下の幅も1.9m程度確保して作業しやすい環境づくりに配慮した。また、天井高を事務室等は3m・工場等は4.5mを基準とし、断熱性・換気効率を高め、室内環境の快適性や環境負荷の低減に努めた。

Q1 室内環境

- ・F☆☆☆☆の採用により汚染物質の最小化に努める。
- ・2階に禁煙室を設け、非喫煙者にとって煙に曝されない環境となっている。

Q2 サービス性能

- ・天井高を十分にとり、利用者の快適性の向上に努めた。
- ・グリーン購入法適合品の衛生器具を採用し、節水を図る。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・緑地スペースを設け、敷地内の良好な景観形成を行っている。

LR1 エネルギー

- ・LED照明、高効率の機器を採用することで省エネルギーに努める。

LR2 資源・マテリアル

- ・自動水栓や節水型機器を採用し、資源保護に努める。

LR3 敷地外環境

- ・管理用と来客用の駐車スペースを確保し、交通負荷の抑制に努める。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階

建物名称 **熊本シール工業㈱工場新築工事**

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		79.1
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				90	0.40	36.00
Q1-2.1.3	外皮性能	4.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.10			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				66.2	0.20	13.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.5	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数